

九〇才にしてなおキャンバスに向かう
孤高の画家・呉炳学の知られざる半生

山川修平著

白磁の画家

オ・ビョンハク

― 芳醇にして強靱なる呉炳学の世界 ―

◎ 体裁

四六判ハードカバー

278頁

カラー口絵8頁

◎ 定価：本体2500円＋税

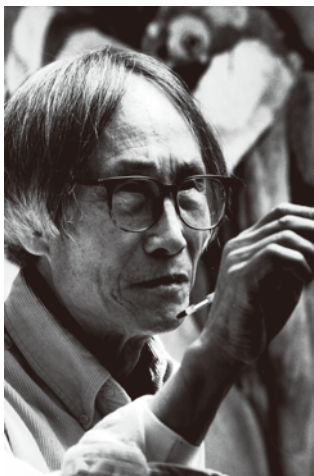
ISBN: 978-4-380-13002-1

2013年2月刊行予定

※サブタイトルは美術評論家・故針生一郎の「呉炳学礼讃」より

呉炳学（オ・ビョンハク）

1924年平安南道順川生まれ。平壤商業卒、42年18歳で渡日、太平洋美術学校で本格的にデッサンを学ぶ。44年教育召集を受け一時帰国、空襲下再来日、45年5月25日、東京山の手大空襲下、奇跡的に生き残る。漆原美津子と結婚。戦後の激動期に東京芸大入學（安井曾太郎教室）、焼け跡から這い上がり波乱の戦後を生き抜く。渡仏を計画するも国籍問題で果たせず。その後いかなる美術団体にも所属せず、ひたすらゼザンヌを師として描き続ける。渡仏を果たしたのは炳学66歳であった。画集の発刊は77歳の時。2012年2月、88歳大回顧展を豊橋市美術館で開催、その後東京で個展を重ね、波乱の人生が続いている。



ご担当者様：委託配本部数をご指定下さい

「孤高の魂とその人間ドラマに魅せられて」

「…植民地下の朝鮮に生まれた呉炳学、太平洋戦争の戦中戦後の過酷な試練、幾度かの死線乗り越えて生き抜くことができたのも、絵を描くことへのかぎりない情熱こそが生命線であった。時代の試練乗り越えられたのも、絵という芸術の絆以外の何ものでもなかった。才能が執念を支え、執念が才能を守ったのだ。

…私はいくつかの偶然が重なり、画伯と交流する機会に恵まれた。以来、この強靱な画伯の片鱗だけでも後世に伝えたいという強い思いに急き立てられる日々が続いた。微力ながらその努力の成果が本書である」



井田アトリエの呉炳学 (1956年42歳の頃)

山川修平・著

四六判・ハードカバー

278頁＋カラー口絵8頁

白磁の画家

― 芳醇にして強靱なる呉炳学の世界 ―

委託 冊

ISBN: 978-4-380-13002-1 C0036 ¥2500E

◎ 定価：本体2500円＋税

2月発売予定

書店・番線印

三一書房

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-1-6
電話：03-6268-9714 FAX：03-6268-9754

HP: <http://31shobo.com/>
Mail: info@31shobo.com